

◆行動計画についての入力フォーム◆

必要に応じてセルの追加、高さ調整をして下さい。

該当箇所		修正内容案等	修正等が必要な理由
頁	行		
全体		「侵略的外来種リスト」の名称を再検討いただきたい	侵略は「武力による侵略」を想起させる言葉であり、誤解を生じないか懸念される。リストには数多くの有用植物が掲載されており、その極端な排除につながりかねない。たとえば、一部の自治体で用いられている「ブルーリスト」などの名称を用いることなどを検討していただきたい。
6	1	段落末に次の一文を追加 「さらに、外来種対策の結果、代替使用のために大量導入され、国内の自然環境に拡散している外国産の同種の生物の遺伝的影響の問題も指摘されています。」	有用生物の外来種対策には必ずつきまとう問題であり、後の章の記述の理解のためにも、1章での記述が必要と考える。
24	20	段落末に次の二文を追加 「一般的には、対策の必要性が高く、対策の実行可能性が高いものが、対策の優先度が高いこととなります。一方、被害規模の大きいケースでは、一般に、対策の実効性が低い場合が多いため、その場合には、より戦略的かつ慎重な検討が求められます。」	現状の文言では、対策の優先度検討の指針が示されていないため。そもそも、被害規模をここであげる必要があるか？侵略的外来種リストではそのような評価は行われないため、2つの文書が不整合となっている。
25	図	対策の優先度としては、現状、被害の深刻度が高く、(潜在的な)被害の規模が大きいものとなっているが、被害の深刻度が高く、(潜在的な)被害の規模が小さいものがより優先度が高いのではないか。次に、被害の規模が大きいものであろう。	対策の実効性を考えると、被害の規模が小さいものが優先度が高いはずである。「潜在的な」の実体的意味が不明ということもあり、この図の含意するところが混乱しており、対策の優先度検討における図の趣旨もまた不明である。この図は必要なのか？
26	5	「潜在的な被害の規模」について定義および把握方法を示していただきたい。	「潜在的な」と加えた意味が不明である上に、評価の内容も深刻度に比べると希薄である。リストの評価方法とも十分な整合がはかれていないのではないかと。
29	21	「自然草原」→「自然・半自然草原」	外来植物の侵入による在来種の減少は、自然草原に限らず、生物多様性保全上重要とされる半自然草原にも見られるため、自然草原特有の問題と誤解されるような表現は望ましくない。
29	23-24	「可能な限り管理下から生態系へ広げないような対策が必要です。」 ↓ 「管理下から生態系へ広げないような対策が必要であり、管理が難しい場合は使用を避けることが必要です。」	法面・荒廃地緑化用のイネ科牧草類については有効な管理対策が見つからない現状であり、生物多様性保全上真に問題がある場合は使用を避けることを選択肢として示すべきと考える。

29	25	以下の文言を挿入 「外来生物の侵略の要因としては、生物の侵略性のみならず、侵略に対する環境側の耐性が同時に重要です。レジリアンスの高い安定した生態系を保全・再生し、外来生物が侵略しにくい生物多様性豊かな地域を育むことが大切です。農林業の衰退や無秩序な都市開発等によって、管理されず生態的にも未成熟な空間や富栄養化した生態系が増えることは、外来生物の侵入を促すことにつながるため、開発等に当たっては、その後の持続的で適切な土地利用・緑化計画や水質浄化対策等について検討することが必要です。」	生物の侵略性のみならず、環境の被侵略性について述べることは、対策の実効性や持続性を考える上できわめて重要であるため。
36	11	「可能な対策を実施」 ↓ 「侵略性の高い外来種の新たな使用を止め、既存の外来種については、封じ込め・防除等の管理対策を実施」	不可能な対策はできるわけがないので、可能な対策を具体的に例示すべきと考える。
37	21	自主的に → (削除)	この自主は事業者を指すものと思われるが、事業者が勝手に判断するとの解釈ができる表現は不適切と考えられる。正確には、事業者が自主的に判断できる情報等の基盤を整備することが必要ということと考えますが、修正としては単に削除でよいのではないか。
38	19	農林水産の各分野 ↓ 農林水産や国土管理の各分野	国土交通省所管分野での研究が行われていることも反映すべき。
39	7	「進展しているものの」 ↓ 「少しずつ進展しているものの」	特定外来生物法の施行時にも必要性が指摘されていた外来種の全国的な把握システムができていない現状では、進展しているとは言えないため。
39	10	「・特に侵入初期における外来種の分布、個体数等の動態に関する情報の収集と分析」 ↓ 「・市町村以下の空間スケールにおける外来種の分布およびその経年変化に関する情報の収集と分析」 「・貴重な生態系等における外来種の個体数等の動態に関する情報の収集と分析」	侵入初期のみならず、外来植物種の分布情報は、対策の基本単位となるべき都道府県以下のレベルではほとんど整理されておらず、また経年変化はまったく把握されていないため、その対処に関する科学的検討の基盤を著しく欠いた状況にある。分布情報と個体群動態の情報は分けて考える必要があり、前者は普遍的に必要なのに対し、把握に手間がかかる後者については、特定の重要な群落等について継続的なモニタリングが望まれる。
39	18	「・生物の導入に伴う遺伝的攪乱の影響の把握と評価」 ↓ 「・近縁の外来種の導入に伴う遺伝的攪乱の影響の把握と評価」 「・同種内の異なる地域系統の導入に伴う遺伝的攪乱の把握と評価」	遺伝的攪乱には、種間の交雑の問題と種内系統の攪乱の影響の二つの問題があるが、それらは異なる内容を持つため、わけて記述するのが適切である。

42	21に追加	また、既存の代替種利用法や外来種を使用しない方法の積極的な採用を実施します。	追加を提案するものは、道路のり面等の緑化を念頭としたものである。本行動計画においては、「代替種の開発と利用」といった表現が随所にあります。在来種を用いる工法や、外来種を使用せず自然侵入を促進する工法などが既に開発されている。国土交通省ではそういった工法の採用のため技術的基準を既に示しているが、実態として工事費が高くなるため、特別に許される場合を除けば公共事業での使用は、無駄遣い、贅沢と判断されるという懸念から使用は伸び悩んでいる。また現在の工事費の積算体系、市場単価の決定方式がコストが割高の工法の採用を拒んでいる。率直に言えば、生物多様性のために工事単価が上昇することを発注者が認識し、市場調査機関や、会計検査院にも十分に説明しておいてほしいということになるが、本行動計画には金銭、予算に直接的に触れる表現はふさわしくないので、このような修正案を提案する。
42	24	次の段落を追加 「外来種を広げないためには、外来種が入りにくい健全な生態系の地域を育むことも重要です。侵略的外来種を防除し、在来種を主とした生物多様性豊かな生態系を再生していくことや、農林業等による適切な生態系管理・植生管理を実施することは、地域全体の生態系のレジリエンスを高めることにつながります。このような事柄に配慮した緑地計画・環境管理施策等のポジティブアクションの策定が望まれます。」	罰則のない取り締まりばかりでは実効はあがらない。行政・市民・業界がともに動け、また持続性のあるプログラムが必要であり、生物多様性豊かな地域づくりは、一つの有効な対策と考えられる。
42	24	「また、これらの、」→「侵略的外来種の」	前行の追加に伴う修正
43	14～15	「メディアを活用した広報や教育…外来種対策に対する理解と知識を深め」 ↓ 「メディアを活用した適切な広報や教育…外来種対策に対する正しい理解と知識を深め」	メディアによる誤った知識、認識の拡散を防止するため追記すべきと考える。
43	36	「教育現場において、使用動物の適正飼養の推進や、」 ↓ 「教育現場において、使用動物の適正飼養の推進や、有用植物の適切な育成管理方法・雑草防除方法の実践的修得、」	具体的な対策を進めるためにも、国民全体への認識の普及を図る上でも、植物管理についての実践的教育は重要なため。
49	24	「郷土種のみによる緑化工」 ↓ 「地域性種苗を用いた緑化工」	郷土種はほぼ海外産の種苗で構成されており、それを用いた緑化は、遺伝的攪乱の問題をかえってより深刻化させる。在来種による緑化のためには、地域性種苗の利用が必須である。
50	23	環境の外来種侵略に対する耐性を高める対策として、関係省庁等で展開されている生物多様性保全や自然再生等の取組とのリンクに関する記述を追加していただきたい。	同左
64	20	「郷土種のみによる緑化工」 ↓ 「地域性種苗を用いた緑化工」	再掲
65	30	「郷土種のみによる緑化工」 ↓ 「地域性種苗を用いた緑化工」	再掲